

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立榎並小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	城東区
学 校 名	大阪市立榎並小学校
学 校 長 名	梅山 仁美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立榎並小学校では、第6学年 77名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立榎並小学校の結果概要

【国語】平均正答率は、大阪市平均より8ポイント、全国平均より6.1ポイント高い。すべての内容で大阪市、全国平均を上回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」では大阪市平均より9.1ポイント、全国平均より10.0ポイント上回っている。平均無回答率は大阪市平均より1.4ポイント、全国平均より2.0ポイント低い。

【算数】平均正答率は、大阪市平均より9ポイント、全国平均より8.6ポイント高い。全ての領域で大阪市、全国平均を上回っている。無回答率は大阪市平均より2.5ポイント、全国平均より2.9ポイント低い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】13問のうち、解答が記述式の問題が2問あり、どちらも正答率が全国を10ポイント近く上回った。文字数、使用が指定されている言葉、自身の経験や考え等複数の条件の中で文章が書ける力がついてきた。正答率が全国を下回ったものは2問あった。一つ目は、「ふしぎ」を漢字で書く問題で、全国より4.9ポイント下回った。二つ目はある文章を読んで文章の書き方の特徴を捉える問題で、全国より0.1ポイント下回った。漢字については意味や読みは理解していても、書字として定着していない児童が多い。知っている漢字を実際に使う経験が不足している。文章の特徴を捉える問題については、内容理解はできても文章構成や筆者の工夫など「どのように書かれているか」を捉える力に課題が見られる。

【算数】20問のうち、記述式が3問あり、全てで全国を大きく上回った。ある問題では全国より16.5ポイントも上回った。国語と同じく条件の中で自分の考えを文章で表す力をつけている。正答率が全国を下回ったものは1問あった。ある大きさがもとにする大きさの1.5倍になっているものを6つの中から2つ選ぶ問題で、全国より3.0ポイント下回った。計算はできても倍率の意味や量感の理解が十分でなく、小数倍を図や量で捉えることに課題がある。国語、算数に共通する課題は、知識を覚えることはできているが、その知識を活用し根拠をもって考える力の不足である。なぜそう思うのかを説明させる活動、文章構成を図式化する学習、漢字を文脈の中で活用する学習、算数で図や言葉による説明を重視する指導を行ってきた。児童も、学級の友達との話し合いで自分の考えを深めることができている実感はもっている。自分の考えを表す力は育ってきたが、同時に他者の文章を分析する力を育てる必要がある。

質問調査より

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目において、肯定的回答の割合が大阪市平均84.0%、全国平均85.7%に対し、93.6%と上回っている。これは一昨年度から引き続き日々の授業の中でペアトーク、グループトークを多く取り入れた学習活動の成果であるといえる。「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の項目において、「30分より少ない」と答えた割合が昨年32.8%であったが、20.5%と改善されている。この結果から、自主学習の取組推進の成果が少しずつ出始めている。

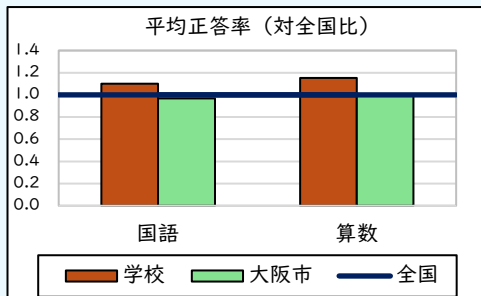
今後の取組（アクションプラン）

- 主に大阪市学力経年調査の結果を活用し、より具体的な児童の課題を明確にし、学年間の系統立てた学習活動に取り組んでいく。
- 自主学習ノートや一人一台端末を活用した家庭学習の工夫を図る。
- 周年行事（150周年）を通し、地域や家庭と連携し、インタビュー等で話を聞く機会、聞き取ったことをまとめる機会を増やす。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要

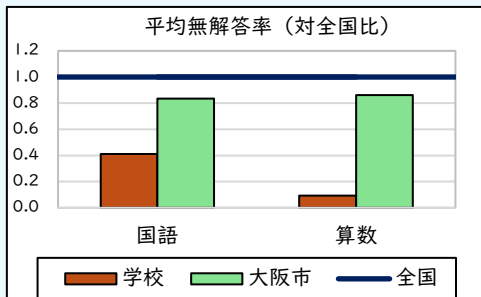
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	67	65
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



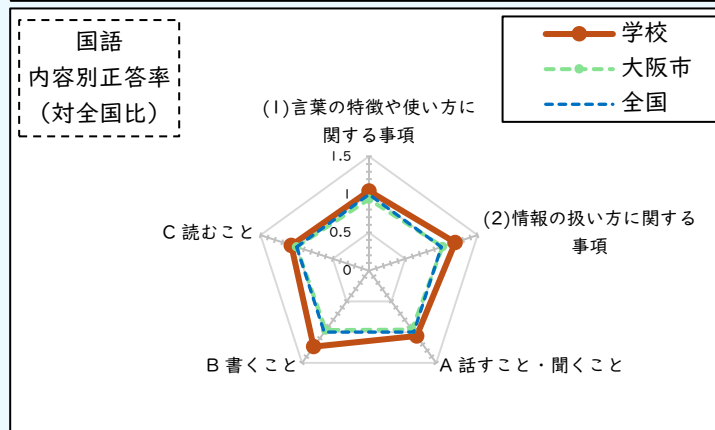
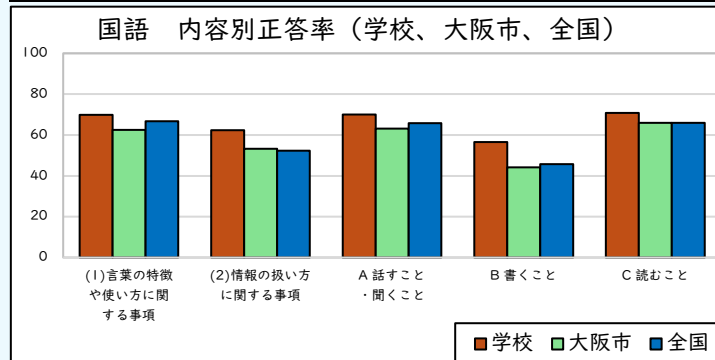
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.4	0.3
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	69.8	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	62.3	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	70.1	63.1	65.8
B 書くこと	2	56.5	44.2	45.7
C 読むこと	2	70.8	66.0	65.9



【算数】領域別正答率

学習指導要領の 領域	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	68.3	61.2	61.1
B 図形	4	65.3	54.5	55.3
C 測定	1	84.4	77.5	78.1
C 変化と関係	3	42.9	40.3	41.1
D データの活用	4	58.4	48.8	48.6

